

研究紀要・年報

# 縄文の森から

From JOMON NO MORI

第8号

《研究ノート》

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての一考察  
新屋敷 久美子

南部九州における中世瓦質土器の蛍光X線分析  
黒木 梨絵

植物質資料からみた南九州  
—天神段遺跡を中心に—  
深川 祐子

全点ドット調査の有効性と問題点  
—1970年代から1990年代の調査を中心に—  
立神 倫史

宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について  
長野 眞一

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡  
中村 耕治

郷土教育と考古学  
—相川日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと—  
吉元 輝幸

《資料紹介》

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き  
上床 眞

平成26年度 年報

鹿児島県立埋蔵文化財センター

2015.10

# 『縄文の森から』 第8号 目次

---

---

## 《研究ノート》

古墳時代肝属平野における地下式横穴墓出土鉄器についての考察

新屋敷 久美子 . . . . . 1

南部九州における中世瓦質土器の蛍光 X 線分析

黒木 梨絵 . . . . . 7

植物質資料からみた南部九州

— 天神段遺跡を中心に —

深川 祐子 . . . . . 19

全点ドット調査の有効性と問題点

— 1970年代から1990年代の調査を中心に —

立神 倫史 . . . . . 33

宮ノ上遺跡の縄文時代後期前半の土器群について

長野 眞一 . . . . . 47

大隅地域における古墳に関わる祭祀遺跡

中村 耕治 . . . . . 53

郷土教育と考古学

— 相田日出雄の埋蔵文化財を活用した教育実践から学ぶこと —

吉元 輝幸 . . . . . 65

## 《資料紹介》

南部九州における古代のカマドに関する覚え書き

上床 真 . . . . . 77

平成26年度年報 . . . . . 85

---

---

# 古墳時代肝属平野における 地下式横穴墓出土鉄器についての一考察

新屋敷久美子

Ironware excavated from Underground Corridor-style Brial Chambers in the Kofun jar, Kimotsuki Plain

Shinyashiki Kumiko

## 要旨

本稿では、肝属平野の地下式横穴墓から出土した副葬鉄器を対象として、その器種や出土量、分布の傾向の分析をおこなった。結果、肝属平野における鉄器の出土傾向が把握でき、高塚古墳に伴う地下式横穴墓と地下式横穴墓が主体の墓地とでは副葬品の器種・量が異なっており、前者は希少品が少量、後者は一般的な鉄器が少量だが一部では大量に出土するという傾向が見えた。

キーワード 古墳時代中期、地下式横穴墓、副葬鉄器、肝属平野

## 1 はじめに

地下式横穴墓は、古墳時代の南九州に分布した墓制である。在地性の強い墓制として注目され、古墳時代の南九州を理解する上で研究対象とされてきた。地下式横穴墓という在地的な墓制の分布域が、畿内を中心とした全国的な斉一性の象徴である高塚古墳の分布域と重複することも大きな特徴である。そもそも古墳時代は、全国的に斉一性が目立つ時代である。特に、古墳時代中期では、畿内を中心として、広域で副葬される武器・武具の種類や組み合わせが斉一的であることが知られている。これは、政治の中心である畿内から全国に大量の鉄器配布があり、首長間の交流によって鉄鍬の広域な移動と情報の共有化が政治的にこなわれた等が考えられている (e. g. 橋本 2003)。しかし、南九州では、そうした畿内的な副葬品がありつつも、広域流通していない、在地的な鉄器が出土している。代表的な例が、圭頭鍬である。圭頭鍬は弥生時代後期から存在する鉄鍬であり、古墳時代前期後半～中期前半では近畿を中心として点在するが、それ以降では南九州で大量に出土する (杉山 1988)。さらに、その形態も広域流通品とは異なる特徴をもつ (和田 2002)。このように、南九州では、在地

的な墓制・鉄器と斉一的な墓制・鉄器が共存していることが指摘され、畿内の政治的な影響を受けつつも、地域独自の社会を形成・維持していたとされている (橋本 2003)。

これまで古墳時代南九州の研究は一定の成果があるものの、特に遺物出土量の多い宮崎平野やえびの地域、薩摩・肥後南部地域のみで語られてしまうことも少なくない。そこで今回は、南九州のなかでも、地下式横穴墓と古墳の南限地域だがあまり研究対象とされてこなかった肝属平野の地下式横穴墓から出土した鉄器の出土量や出土地域の傾向を分析することで、肝属平野の古墳時代当時の様相を考察することを目的とする。

## 2 先行研究

古墳時代の副葬品の中でも、時期判断の指標となる鉄鍬の研究は古くからあるが、杉山秀宏の研究によって編年の大枠は完成にいたっている (杉山 1988)。その後、尾上元規や水野敏典によって地域性を抽出する研究がおこなわれているもの (尾上 1993, 水野 1995)、これらは古墳時代後期を対象としており、それ以前の中期では全国的には斉一性が認められている。しかし、南九州においては例外

であり、古墳時代中期の地域性を検討するための研究対象にされている。南九州で地域性がみられる理由に関して橋本達也は、

- ① 地下式横穴墓や地下式板石積石室墓という南九州に特徴的な墓は、遺存状態がよく、有力首長から広範の階層の人々まで埋葬施設が確認されやすい
  - ② 群集をなす墓制の調査がされ、少数でも鉄鏃が出土する場合があります、その結果、鉄器出土量が多い
  - ③ 元々形態的に地域性をもった鉄鏃が分布しているため
- としている（橋本 2003）。

このような南九州の地域的特色から、具体的にその地域性を見出す研究として特筆すべきなのが、和田理啓による研究である（和田 2001；2002；2007）。和田は、地下式横穴墓から最も普遍的、かつ数多く出土する圭頭鏃（高木 1981；1982，杉山 1988）をその形態差から分類し、広域流通する鉄鏃との共伴から年代を推定し編年をおこなっている（和田 2001）。そのなかで、圭頭鏃の分布の中心が西諸県地方にあることから、西諸県地方が南九州の圭頭鏃の流通の中心であった可能性を指摘している（和田 2002）。

また、南九州出土鉄鏃を、流通形態ごとに分類しその様相構造を探ったのが、秦憲二による研究である（秦 2003）。秦は、南九州を「薩摩・肥後南部地域」、「えびの地域」、「岩瀬川・大淀川上流地域」、「日向灘沿岸地域」の4つに、鉄器の型式を「生産型式」、「搬入型式」、「広域流通型式」の3つに区分し、鉄鏃の形態差や分布の中心地がどこにあるかの分析をおこなった。その結果、「一口に南九州といっても、日向灘沿岸部と内陸部では異なる様式構造である」、「在地的な型式である圭頭鏃群が直刃類と曲刃類で生産地域が異なる」、「内陸部では圭頭鏃群以外にも生産型式と認定できるものがある」ことを明らかにした（秦 2003）。

南九州の様相について徐々に明らかになってきてはいるものの、対象を南九州としつつも、肝属平野についてはあまり触れられていないのが現状としてある。それを指摘し、肝属平野を対象とした研究をおこなったのが田村和裕である（田村 1998）。田村は、地下式横穴墓の南限地域で

ある大隅地域の地下式横穴墓が、資料の蓄積があるにも関わらずこれらの分析を総合的におこなっている例がないことを指摘し、大隅地域の地下式横穴墓の分類、編年をおこなった。そのなかで、副葬鉄器について、宮崎平野部や鹿児島県内陸部と比べると量的に少ないが、それは大隅地域独自の副葬品を選択していたのではなく、種類・量ともに僅少な所有だったというネガティブな独自性が見えるとし、これを「地理的勾配 geographical cline にしたがった衰退」ととらえている。

このように、肝属平野を対象とした研究は一部あるものの、肝属平野内という小地域での分布の傾向の考察はなされていない。そこで今回は、肝属平野の地下式横穴墓を対象として、その鉄器の出土傾向や地域性について検討した。

### 3 資料と方法

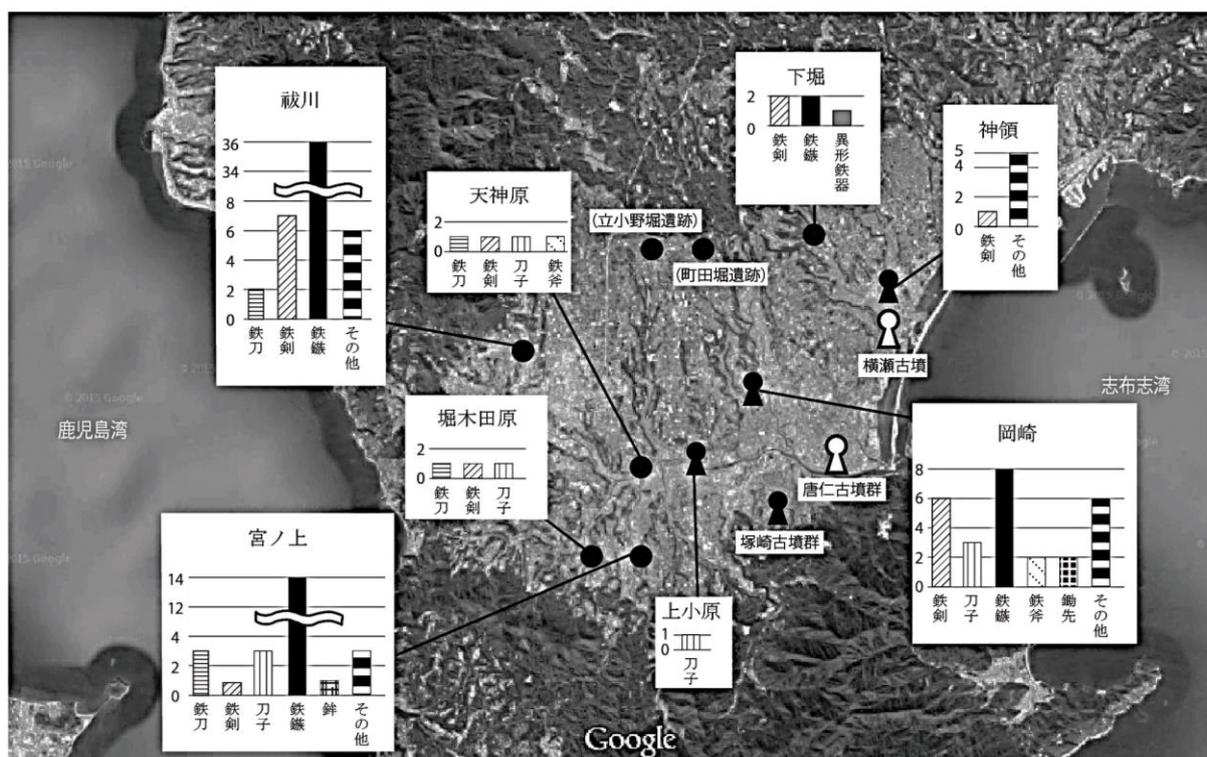
肝属平野で副葬品として鉄器が出土している地下式横穴墓を対象とした。時期差による差を排除するため、鉄器が豊富に出土する古墳時代中期を対象とし、それに伴い築造時期が判断ができない地下式横穴墓は対象外とした。時期判断については、時期が特定されている広域流通品との共伴（e. g. 杉山 1988）と、先行の研究（高木 1981；1982，和田 2001；2002 など）などを参考にした（表1）。また、図1に地下式横穴墓が伴う古墳として塚崎古墳群を挙げているが、古墳自体は古墳時代中期に該当するものの、地下式横穴墓は現在報告されている資料では時期が下るため対象外とした。

これらから、それぞれの器種とその数をカウントし、地理的傾向と比較できるようグラフによって可視化した。それを参考に、遺跡内での出土量比や、遺跡同士の位置関係、前方後円墳との位置関係から、その様相を検討する。

### 4 結果と考察

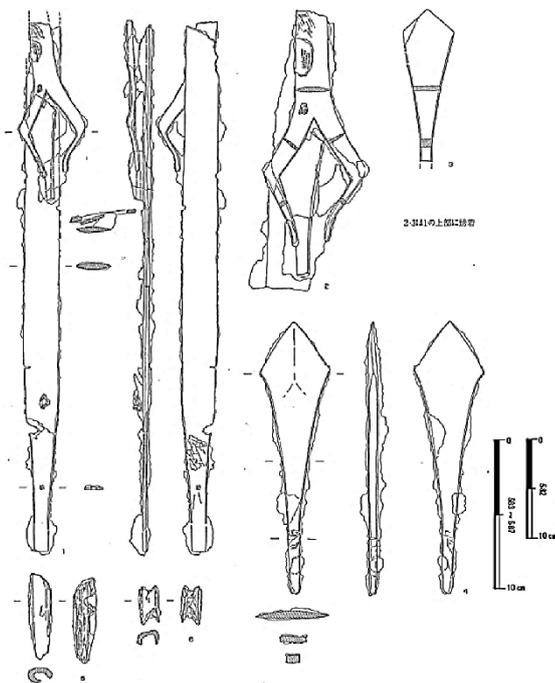
全国的に資料が豊富といわれる段階である古墳時代中期だが、鉄器が副葬されている地下式横穴墓は7遺跡となった（表1）。時期判断できない地下式横穴墓を除外しているため、あくまで下限の数字であるが、他地域と比較す

第1表 地下式横穴出土鉄器										
遺跡名	所在	号数	副葬品						その他	
			鉄刀	鉄剣	刀子	鉄鏃	鉄斧	鉾		鋤先
下堀	曾於郡大崎町	2号		1		2			異形鉄器(15.2cm)	
		6号		1		1				
神領	曾於郡大崎町	1号		1					骨製葺1、イモガイ製貝 釧2、内向花文鏡1	
祓川	鹿屋市祓川	遺構不明	1	1					横矧板鍔留短甲、横矧 板鍔留衝角付冑	
		1号				5				
		10号		1		9				
		18号		2						
		21号	1	1		14				
		27号		1						
		28号					5			
29号			1		3			胡禄金具4		
天神原	旧肝属郡吾平町	1号		1	1					
		2号	2				1			
上小原	旧肝属郡串良町	1号			1				須恵器(蓋、甕、樽型 甕)	
岡崎	旧肝属郡串良町	1号		2	1	8			不明1 砥石1、鉋1、鑿1	
		1号		3	1		1	U字形鋤先1	鑿子状鉄製品1、鉄鋸1	
		2号		1	1		1	方形板鍔鋤先1		
宮ノ上	旧肝属郡吾平町	4号	1			1			鏝1	
		10号	1			10		1	不明3	
		11号	1? (柄のみ)			1	3			
		12号		1(破片)						
		14号			1					
堀木原田	旧肝属郡吾平町		1	1	1					

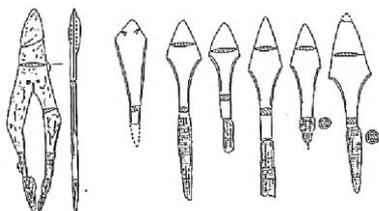


第1図 副葬鉄器出土地下式横穴墓とその出土量 ( ( ) 内は未発表資料)

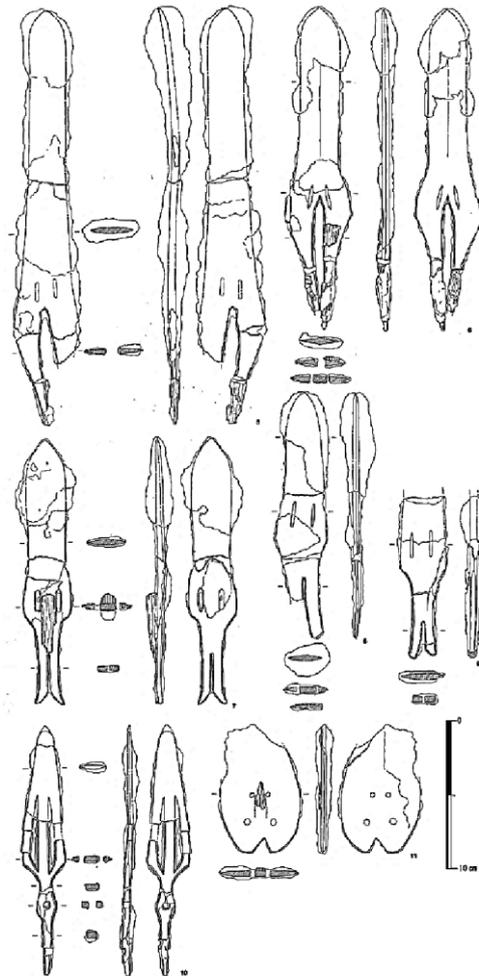
●…地下式横穴墓 ○…高塚古墳 ●…高塚古墳+地下式横穴墓



第2図 下堀遺跡出土異形鉄器と共伴遺物(内村2005より)



第4図 松ノ元地下式横穴墓出土異形鉄器と共伴遺物(乙益1974より)



第3図 成川遺跡出土異形鉄器(橋本・藤井2007より)

ると明らかに少ない。これは、単発的な調査がほとんどで、墓域全域を調査するような広範囲での発掘調査があまりおこなわれていないことも大きな原因として考えられる。しかし、祓川地下式横穴墓群のように地下式横穴墓自体は34基出土しているものの、副葬品が伴うのは7基という明らかに副葬品をもつ地下式横穴墓が少ないという傾向はある。このような出土状況に関して、田村の「地理的勾配にしたがった衰退」という要因も考えられるが(田村1998)、今後の調査による資料の増加を期待することとし、現段階での出土状況から述べることにする。

高塚古墳と地下式横穴墓との地理的な関連として、今回最も出土数の多かった祓川地下式横穴墓は、高塚古墳が集中する地域のほとんど対角線上に位置する(図1)。高塚古墳と共存する地下式横穴墓3遺跡で、比較的鉄器が多いのは岡崎古墳群に伴う地下式横穴墓である。注目すべきはその種類で、鉄鋌や鍬子状鉄製品などこの地域で出土がほとんどない希少なものを含んでおり、地下式横穴墓が主体の墓地とは様相が異なることを示している。神領古墳群に伴う地下式横穴墓でも、出土量は目立って多くないものの、鹿児島県内の地下式横穴墓で唯一、鏡が出土している。上

小原古墳に伴う地下式横穴墓は、副葬鉄器は刀子1点だが、須恵器が副葬されている。こちらもまた他の地下式横穴墓にはほとんど例がなく、質が異なる。また、今回対象とした遺跡で最も鉄鏃が多く出土しているのは祓川地下式横穴墓である。さらに、未発表であるものの、鹿屋市串良町細山田所在の立小野堀遺跡や町田堀遺跡で数多くの鉄器が出土しているとの報告がある。この3遺跡は地下式横穴墓が主体の墓地である。よって、高塚古墳と共存する地下式横穴墓は、明らかに地下式横穴墓が主体の墓地とは副葬品の質が異なり、古墳の影響下にある。逆に、地下式横穴墓が主体の墓地は、多くが量・質ともに劣るものの、祓川地下式横穴墓などのような一部の地下式横穴墓では、刀剣類・鉄鏃が主体だが数を豊富にもっている、という所有の違いが見えてくる。つまり、古墳にともなう地下式横穴墓は量より質、一部の地下式横穴墓が主体の墓地では質より量という傾向があり、副葬品の面からも、両者の権力の違いが表れている。

また、下堀遺跡の2号墓で出土している異形鉄器(図2)は、地域色が強いといわれる南九州のなかでも、かなり限定的な出土をしている。まず、指宿市山川町所在の成川遺

跡で6点出土している(図3)(田村(編)1974, 橋本2003, 橋本・藤井2007)。副葬品ではないものの、その数の多さや重厚なつくりから他遺跡出土のものより先行するとされている(橋本2003, 橋本・藤井2007)。その他では、宮崎県小林市真方所在の松之元地下式横穴墓で1点出土しているのみで(図4)(乙益1974), 3遺跡でしか出土していないのが現状である。

この異形鉄器が、立小野堀遺跡や町田堀遺跡でも出土しているとの報告がある(注)。時期的にも地理的にも近いこれらの遺跡からの異形鉄器出土は、分類や編年、共伴遺物からの組み合わせの問題、その性質など、これまで資料数の少なさから言及できなかった部分の進展が期待できる。

さらに、近年の調査によって、鹿屋市串良町細山田所在の川久保遺跡で鍛冶関連建物跡の発見が報告されている。異形鉄器が出土している上記の遺跡から時期は下るため、直接の関連はないものの、肝属平野で鍛冶がおこなわれていたことを示す重要な遺跡である。異形鉄器の分布の中心は、肝属平野の北側である。あくまで、現段階でという条件が付くが、この地で鉄器が製作されていた可能性を少なからず示すものである。

これに関連して、立小野堀遺跡では鉄鐸の出土が報告されている(註)。鉄鐸は、全国的には鍛冶具とともに副葬されており、渡来系鍛冶工人と関連して理解されていることが多い(e.g. 早野2008)。ただし、同じく南九州で鉄鐸の副葬例がある宮崎県内では、鍛冶関連遺構が出土しているにも関わらず、鍛冶具が副葬している例はなく、地域で性質が異なる可能性を示している(甲斐2010)。立小野堀遺跡出土の鉄鐸も、直接的に同時期にこの地で鉄器が製作されていたと言えるものではないものの、根拠の一つになる可能性はある。今後の調査による資料の増加に期待したい。

## 5 おわりに

以上、本論では、肝属平野の鉄器の出土傾向の現状の整理と把握ができ、今後の解決すべき課題が見えてきた。今後は、高塚古墳出土の副葬鉄器も対象とし、高塚古墳と地下式横穴墓との比較や、当時の肝属平野の武器所有の様相、その他の南九州地域との比較などについても検討したい。

また、刀剣類に関しても、刃部幅が広く薄手で実用性に欠ける形態をした在地生産が考えられるものが出土している。明確な分類基準がないため今回は時間の都合上対象外としたが、これについても、広域流通品との形態の違いなどから分類基準を設定し、その分布を分析することで、さらに肝属平野での様相に迫ることができるとであろう。今後の課題としたい。

【註】発掘調査報告書は未刊行だが、現地説明会等で報告されている

### 【発掘調査報告書】

- 近沢恒典(編)2005『高取原地下式横穴墓』高城町文化財調査報告書19, 高城町教育委員会。  
鹿屋市教育委員会2007『薬師堂の古墳 祓川地下式横穴墓群』鹿屋市埋蔵文化財発掘調査報告書83, 鹿屋市教育委員会。  
長野真一・中村耕治(編)(1983)『大隅地区埋蔵文化財分布調査概報』鹿児島県埋蔵文化財調査報告書25, 鹿児島県教育委員会。  
中村耕治(編)1989『天神原地下式横穴群』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書5, 吾平町教育委員会。  
中村耕治(編)1990『岡崎古墳群』串良町埋蔵文化財発掘調査報告書3, 串良町教育委員会。  
中村耕治・湯之前尚(編)1992『神領地下式横穴6号』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書2, 大崎町教育委員会。  
立神次郎・中村耕治(編)1980『大隅地区埋蔵文化財分布調査概報』鹿児島県埋蔵文化財調査報告書13, 鹿児島県教育委員会。  
田村晃一(編)(1974)『成川遺跡』, 文化庁埋蔵文化財発掘調査報告7, 文化庁。  
戸崎勝洋・東和幸(編)1988『神領地下式横穴群5号』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書1, 大崎町教育委員会。  
戸崎勝洋・井ノ上秀文・吉井政広1987『宮ノ上地下式横穴群』『宮ノ上地下式横穴群一附 松ノ下城跡・大牟礼遺跡一』吾平町埋蔵文化財発掘調査報告書2, 吾平町教育委員会。  
内村憲和(編)2005『下堀遺跡・大崎細山田段遺跡』大崎町埋蔵文化財発掘調査報告書5, 大崎町教育委員会。  
吉永正史・中村耕治(編)『岡崎4号墳・1号地下式横穴墓』串良町埋蔵文化財発掘調査報告書1, 串良町教育委員会。

### 【引用・参考文献】

- 第4回九州前方後円墳研究会実行委員会2004『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第4回九州前方後円墳研究会第II分冊, 九州前方後円墳研究会  
藤井大祐2003『南九州古墳時代鉄鏃集成』『前方後円墳築造周縁域における古墳時代社会の多様性』, 第6回九州前方後円墳研究会, 九州前方後円墳研究会  
橋本達也2003『副葬鉄器からみる南九州の古墳時代』『前方後円墳築造周縁域における古墳時代社会の多様性』, 第6回九州前方後円墳研究会, 九州前方後円墳研究会  
橋本達也・藤井大祐2007『古墳以外の墓制による古墳時代墓制の研究』, 鹿児島大学総合研究博物館  
早野浩二2008『古墳時代の鉄鐸について』『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』9, 愛知県埋蔵文化財センター

- 甲斐貴充 2010「古墳時代宮崎県内出土の鉄鐸資料」『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』6, 宮崎県立西都原考古博物館
- 水野敏典 1995「東日本における古墳時代鉄鍬の地域性」『古代探叢』IV, 早稲田大学出版部
- 尾上元規 1993「古墳時代鉄鍬の地域性—長頸式鉄鍬出現以降の西日本を中心として—」『考古学研究』40-1
- 乙益重隆 1974「成川遺跡の鉄器・鉄製品について」『成川遺跡』文化庁埋蔵文化財発掘調査報告 7, 文化庁
- 秦 憲二 2003「南九州における古墳時代鉄鍬の様式構造」『先史学・考古学論究』4, 龍立考古会
- 杉山秀宏 1988「古墳時代の鉄鍬について」『橿原考古学研究所論集』8, 吉川弘文館
- 鈴木一有 2002「九州における古墳時代の鉄鍬」『考古学ジャーナル』496
- 高木恭二 1981「4. 圭頭斧箭式鉄鍬について」『城二号墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書 3, 城二号墳発掘調査団, 熊本県宇土市教育委員会
- 高木恭二 1982「圭頭斧箭式鉄鍬再考」『肥後考古』2, 肥後考古学会
- 田村和裕 1999「大隅地域における地下式横穴—分類・編年と基礎的位置づけ—」『人類史研究』11, 人類史研究会.
- 和田理啓 2001「日向の地下式横穴」『九州の横穴墓と地下式横穴墓』第 4 回九州前方後円墳研究会第 I 分冊, 九州前方後円墳研究会
- 和田理啓 2002「宮崎の鉄鍬—その分布と流通について—」『考古学ジャーナル』496
- 和田理啓 2007「九州における古墳時代中期の鉄鍬」『九州島における中期古墳の再検討』第 10 回九州前方後円墳研究会発表要旨・資料集, 九州前方後円墳研究会

---

鹿児島県立埋蔵文化財センター

研究紀要・年報 **縄文の森から** 第8号

発行年月 2015年10月

編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811

E-mail [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)

URL <http://www.jomon-no-mori.jp>

印刷 有限会社 国分新生社印刷

〒899-4301 鹿児島県霧島市国分重久627-1

---

Bulletion of Kagoshima  
Prefectural Archaeological Center

# From JOMON NO MORI

## No.8 CONTENTS

---

---

### 《Study Note》

Ironware excavated from Underground Carridor-style Brial Chambers in the Kofun jar, Kimotsuki Plain  
Shinyashiki Kumiko

X-ray fluorescence analysis of Medieval pottery in Southern Kyusyu, Japan  
Kuroki Rie

Ancient South Kyusyu considered from vegetable matters with focus on Tenjindan site  
Fukagawa Yuko

Validity and Problems of All Dot Excavation  
Tategami Michifumi

Miyanoue site' s pottery group in the first half of the end of the Jomon  
Nagano Shinichi

The Ritural site to Be Affected Tumulus In Osumi Aria  
Nakamura Kouji

Education for local patriotism and archeology  
Yoshimoto Teruyuki

### 《Materials of Archaeological Research》

Introducing Chinaware from Southeast Asia excavated in Kamizuru site by the Manose river lower stream  
Uwatoko Makoto

---

Annual of Kagoshima Prefectural Archaeological Center of the 26th year in Heisei

---

---

Kagoshima Prefectural Archaeological Center  
October 2015

研究紀要・年報

縄文の森から

第8号

二〇一五年  
鹿児島県立埋蔵文化財センター